千葉市美術館 アーティストプロジェクト

つくりかけラボ03 武藤亜希子 C+H+I+B+A ARTシェアばたけ

会期

2021年 4月15日(木)-7月4日(日)

アーティスト 武藤亜希子

テーマ

素材にふれる

「つくりかけラボ」とは、「五感でた のしむ」「素材にふれる」「コミュ ニケーションがはじまる | いずれ かのテーマに沿った公開制作や ワークショップを通して空間をつ くり上げていく、参加・体験型の アーティストプロジェクトです。

第三回では現代美術家の武 藤亜希子さんをお迎えし、「素材 にふれる」をテーマに空間をつく りかえました。会場にはたくさん の作物や実が集まる「シェアばた け」が登場。訪れた多くの人々が 関わり、皆で畑を耕すように時間 をかけて育てていきました。







シェアばたけの育て方

「C+H+I+B+A ART シェアばたけ」では、シェアばたけに育つ作物をつくるための、さまざまな関わり方を用意しました。参加者は、思い思いの方法で、自らの創造性を発揮し、シェアばたけ

を変化させていきました。



チラシのデザインを工夫し、参加型の 仕組みを取り入れました。チラシの中 央がくり抜けるようになっており、その くり抜いた部分を、「きみの実」として 会場に飾ることができます。おうちでデ コレーションをした実を、たくさんの方 が持ってきてくれました。

グラフィックデザイン: minna



オープンワークショップから

会場の隣に設置したコーナーでは、会期中、いつでもワークショップに参加することができました。参加者は糸やシール、型紙などが入ったキットを自由に選んで「きみの実」を制作しました。できあがった実は、会場の好きな場所に吊るし、シェアばたけに実る作物となりました。

オープンワークショップ参加者数:1,144人







3 アーティスト ワークショップから

会期中、計6回、武藤さんによるアーティストワークショップを開催しました。たくさんの種類の色紙や紐、マスキングテープなどから、好きな素材を選び、シェアばたけに実る作物をつくります。できあがった作品は、壁や天井に展示され、会場をさらに豊かにいろどりました。

アーティストワークショップ参加者数:4月25日(日)「p+l+a+n+t」5組14人/5月4日(火・祝)「p+l+a+n+t」5組17人/5月16日(日)「ぐるぐる+ひょうたん」5組15人/5月30日(日)「p+l+a+n+t」5組14人/6月13日(日)「ぐるぐる+花」5組14人/6月27日(日)「このみ+きのみ」5組11人



4

アーティストによる 滞在制作から

武藤さんは、会期中、週2回ほどのペースで、会場内での滞在制作を行いました。ミシンを使い、合皮でできたカラフルでふしぎなかたちの作物を制作し、「だんだんばたけ」に実らせていきました。

滞在制作日:4月18日(日)、25日(日)、28日(水)、5月2日(日)、4日(火·祝)、9日(日)、16日(日)、19日(水)、23日(日)、30日(日)、6月2日(水)、6日(日)、13日(日)、16日(水)、20日(日)、27日(日)、30日(水)、7月4日(日)

武藤亜希子

現代美術家。1975年千葉県生まれ。2006年東京芸術大学大学院博士課程満期修了。地域でのワークショップや、会期中も有機的に変化していく参加型の作品制作を行う。近年の展示に「ワンダフル ワールド展」(東京都現代美術館、2014年)、「大地の芸術祭」(2009-2015年)、「廃材アート展」(浜田市世界こども美術館、2018年)。

http://akikomuto.com



シェアばたけ観察日記

会場設営~初日

ある日、ハイハイしかできない赤ちゃ んが、カーペットのうえを、たーっ とほふく前進しているのを見ました。 カーペットにするとこういうこともある んだなあ、と嬉しく思いました。

オレンジ色のカーペットを敷き、空間がいっ きにカラフルに! ガラス面には、実を結ぶた めの紐を大量に吊るしました。奥に設けら れた「だんだんばたけ」は、子どもも大人も 登ったり腰掛けたりして楽しめます。

段をひとつ登るだけで、赤 ちゃんにとっては大きなアク ティビティになる。それもお もしろかったです。

つくりかけラボ 03

シェアばたけは、武藤さん が制作した合皮製の作物と いろいろなかたちの実から 始まりました。作物や実は、 どれも少しふしぎなかたちを していて、なにかの野菜や 果物に見えたり見えなかっ たり……。



な、と思いました。

会場では、感染症対策のため、1回1組10分の入れ替 え制をとりました。遊び方は自由、広い空間をひとりじ め! 合皮製の作物には、スナップボタンが取り付けてあ

り、好きな作物どうしをつなげて遊ぶことができました。

す。自分自身でいろいろ感じたがら、興味を持ったり発見をしたりと、静かながら興奮があった





5月

つくりかけラボの大きな要素のひとつである、滞在制 作。武藤さんは、千葉在住のため、ひんぱんに会場を 訪れてくださりました。アーティストに出会える貴重な 機会として、来場者の方も、コミュニケーションを楽しん

> きみの実」は、日々 続け……

5月には、これほどの事

がなりました!

さい子が近寄って きて、じーっと見て くるんです。テープ ルのあたりにちょう ど目線がきて。「な にやってるの?」と 声をかけてくれる 子もいました。

けるようになっていたのですが、親 御さんがお子さんに結び方を教えて いるうちに、紐が結べるようになっ

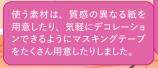
6月

アーティストワークショップで制作された作物も 増えてきました。壁に枝を伸ばす「p+l+a+n +t」、天井から"ぐるぐる"を吊るす「ぐるぐる+ ひょうたん」「ぐるぐる+花」、壁に枝と実をつける 「このみ+きのみ」。どれも、柄や色がさまざま で、参加者の方の創意工夫が感じられます。

どのワークショップも、 つなげてかたちにする 作りものだったので、 家族でひとつの作品に なるのを、みなさん楽 しんでいたようです。

お子さんが選んだ紙か リンクしていたり、逆に しろい場面がたくさん ありましたね。

> 感染症対策のため、アーティストワークショップは1回 1組で開催しました。アーティストと参加者との会話が





ショップのコーナーで作ったりする「き みの実」が、さっそく集まり始めまし た! 十人十色の実が完成し、シェア ばたけを鮮やかに彩っています。







最初の写真と見比べてみると……なんと豊かに育ったことでしょう! ガラス面の 紐や藤棚を埋めつくす実、壁面や天井を彩る枝や作物。たくさんの方々の参加によって、こんなにもシェアばたけは大きく育ちました。





現代美術家 武藤亜希子はこれまで、布やフェルトなど身近な素材を主に用い、出会った人々との対話や土地のリサーチをもとに、作品を制作してきた。今回のプロジェクトでは、武藤が生まれ育った千葉の記憶、農作物豊かな四季折々のイメージを起点とし、色鮮やかな土台に作物や実、花や苗を散りばめ、皆で育てていく場としての「シェアばたけ」を登場させた。カラフルな合皮を用い、作家の手で一つ一つ作られた作物や実はいずれも、何かであって何でもないような、具体性と抽象性を兼ね備えた色彩と形態から、見て触れる者の想像/創造力を大いに掻き立てた。赤い丸い実は梅干しやトマトに、千葉ゆかりの作物としてお馴染みの落花生は、その瓢箪のような形から、何かのキャラクターに見えることも。また、宇宙・惑星など、「はたけ」を飛び出した世界を思い描く子どもも多く、余白を備えた場所の力を感じさせた。

常時参加可能な立ち寄り式のワークショップとして開催した「きみの実をつくろう」は、通常であれば素材を自由に選び、参加者同士の交流を持ちながら「実」を作る場として考えていたが、感染症対策のため制作スペースを区切り、キット配布形式での実施となった。それでも、誰かが作った実を「見る」ことによって膨らんだイメージをもとに、素材や道具の扱い方に創意工夫が重ねられ、会期終盤には、作家も驚くほどバラエティ豊かな実が会場にあふれた。肥沃な畑の中で絶えず食物連鎖が展開しているように、言葉やイメージの背後にあった、その場での過ごし方が引き継がれ発展していくというコミュニケーションの循環が、目に見える形として現れたのだ。

作品の完成を目指す公開制作とは異なり、行き先が定まらない変化の途中を共有する「つくりかけラボ」は、その時、その場で出会った作家の表現に来場者がどのように向き合うか、ともに考える場でありたいと考えてきた。会期中に起こったことを振り返れば、「シェアばたけ」に対する振る舞いは、来場者一人一人の年代や経験、これまで培ってきた価値観によっても様々だった。大きな作物に抱きついてみたり、実と実をいくつもくっつけてみたり、床に寝そべって空間を味わったり。作品に自ら触れることによってその性質を感覚的に掴み取り、自身との関係性を構築していった。

合皮の手触りや縫い目、色の選ばれ方、スナップボタンの弾力まで、作品の細部に宿る作家の想いに「ふれる」という体験を積み重ねること。訪れた皆で畑を耕し、未来に向けて種を蒔くような時間を経ることで、これからも「つくりかけラボ」ひいては美術館が、来場者一人一人の主体的な関わりが集積する場として息づくことを願っている。

(千葉市美術館学芸員 畑井 恵)

つくりかけラボ03 武藤亜希子 I C+H+I+B+A ARTシェアばたけ

つくりかけラボ03 武藤亜希子

C+H+I+B+A ART シェアばたけ

会期

2021年4月15日(木)-7月4日(日)

企画

畑井 恵

ワークショップ運営

田口由佳

上田美里

ワークショップ運営補助

柏原理乃相川佳菜子海質集生願可 奥村裕 奥特惠理

弓削愛一郎

グラフィックデザイン

minna

会場施工

株式会社Office Toyofuku

作品制作補助

佐藤桂一

会場案内デザイン

上田美里

来場者数

1,985人(大人1,294人、中学生以下691人)

主催

千葉市美術館

「つくりかけラボ03

武藤亜希子

C+H+I+B+A ART シェアばたけ

報告書

編集・執筆

畑井 恵

庄子真汀

写真撮影

加藤 甫

デザイン

加藤賢策(LABORATORIES)

奥田奈保子(LABORATORIES)

イラスト

池田陽子

印刷

株式会社エイチケイ グラフィックス

発行

千葉市美術館

〒260-0013

千葉県千葉市中央区中央3-10-8

発行日

2021年10月15日